

みんなできり組むごみ削減

私たちの生活とは切り離せない『ごみ問題』。近年では、ごみの排出による地球環境への影響なども問題視されています。今月号の特集では、ごみの減量化に向けたさまざまな取り組みについて紹介します。

ごみの増加は地球環境にも影響を与えます

私たちの日々の生活の中で、必ず発生する『ごみ』。深谷市は、ごみの回収が週5日あり、中でも家庭から出ることが多い『燃やせるごみ』の回収が週4日もあるなど、こまめにごみ出しができる暮らしやすい環境が整っています。このような便利な環境で生活していると、なかなか意識できないのが、ごみの減量です。

深谷市は、ごみ（可燃ごみ・不燃ごみ）の処分のため、年間約12億5700万円（令和4年度決算）を大里広域市町村圏組合に支出しています。

また、環境省『一般廃棄物処理実態調査結果』によると、深谷市の令和2年度1人1日あたりのごみの排出量は1081gで、県内でも4番目に多い排出量となっています（下表参照）。

ごみは、処分時の焼却や運搬などで多くのエネルギーが消費され

深谷市の年間ごみ処分費用

約12億5,700万円

（令和4年度決算より）

※可燃ごみおよび不燃ごみの処分のため、大里広域市町村圏組合へ支出しています。

1人1日あたりのごみ排出量

（ごみ総排出量を総人口および年間日数で割った量）

順位	市町村	排出量 (g/人日)
1	美里町	1,172
2	熊谷市	1,128
3	本庄市	1,125
4	深谷市	1,081
5	秩父市	1,051
6	行田市	1,021
7	加須市	1,010
8	羽生市	988
9	川島町	982
10	上里町	965

【出典】統計からみた埼玉県市町村のすがた 2023（資料：環境省『一般廃棄物処理実態調査結果』）

たり、二酸化炭素が排出されるため、ごみの排出量が増えると処分費用が増えるだけでなく、処分に伴う環境への負荷やエネルギー消費も大きくなります。地球環境に配慮した暮らしを実現し、処分費用を抑制するためにも、私たち一人ひとりがごみの減量に取り組む必要があります。

ごみ削減のキーワード！ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）

市では、深谷市一般廃棄物処理基本計画において、3Rの推進を掲げ、環境負荷の少ない循環型社会の実現に向けてごみの排出量削減に取り組んでいます。

3Rとは、ごみの削減に向けたキーワードで、ごみを減らすリデュース（Reduce）、繰り返し再利用



用するリユース（Reuse）、資源として活かすリサイクル（Recycle）の頭文字をとったものです。

例えば、マイ箸やマイボトルを活用して使い捨てを減らしたり、不要品は捨てずに人に譲るなど、一人ひとりがこの3つのキーワードを意識した生活を心掛けることで3Rを推進できます。

生ごみに注目！水切りの徹底と再資源化でリデュースしよう

ごみを減らす『リデュース』の取り組みのひとつに、燃やせるごみとして排出する『生ごみ』の水切りがあげられます。固く絞るひと手間を加えることで、簡単にごみの量を減らすことができます。

また、生ごみを堆肥化して資源に変える、コンポストの活用も有効です。市では、ダンボールコンポスト講習会（下記参照）を開催しています。ぜひこの機会に環境に配慮した取り組みをはじめませんか。

一人ひとりの小さな積み重ねが、ごみの削減につながります。ごみの排出量を減らして限りある資源を有効に使いましょう。

生ごみを減らす取り組みに参加とご協力をお願いします

徹底した水切りで生ごみの削減と臭いを防ぎましょう！

生ごみの多くは水分が含まれており、臭いのもととなったり、燃やせるごみの量（重さ）や燃やすさにも影響しています。

そのため、生ごみは捨てる前にしっかりと水切りを行うことで、悪臭の防止とごみの減量化を図ることができます。



ここがポイント！ 生ごみは、捨てる前のぎゅっとひと絞りが重要！

ペットボトルの底で生ごみの袋を押して、水を絞る方法もあります。



生ごみを堆肥にかえて活用しよう！『ダンボールコンポスト講習会』

環境課（☎ 577-6539・☎ 366-8501 仲町 11-1・✉ kankyo@city.fukaya.saitama.jp）

ダンボール箱を使った生ごみ処理器を作る講習会を、風土飲食研究会との協働事業として実施します。

対象 市内在住者

とき ①9月28日(木) 午後2時～3時30分 ②10月20日(金) 午前10時～11時30分

ところ 市役所本庁舎3階大会議室

定員 各日先着25人

参加料 300円(当日集金)

市ホームページ（右記QRコードからアクセス）で注意事項を確認の上、電子申請で申し込み（電子申請が難しい場合は、電話で問い合わせ先へ）



▲市ホームページ

Recycle

意識を変えて正しく分別！ひと手間加えて『ごみ』から『資源』に変えましょう

普段何気なくごみとして捨ててしまっているものでも、正しく分別することで、実は資源としてリサイクルできるものがあります。その一つが『雑紙』です。リサイクルできる紙類として、新聞や雑

誌、ダンボール、牛乳などの紙パックが多くのかたに認識されていますが、雑紙とはそれ以外のリサイクルできる紙のことをいいます。雑紙は、コピー用紙や包装紙など、生活の中で燃やせるごみとし

て捨ててしまいがちなものも多く、一人ひとりが意識を変えて、雑紙を正しく分別することにより、ごみではなく資源として活かすことができます。雑紙としてリサイクルできるものをきちんと認識し、捨てる時には正しい分別を習慣づけることで、再資源化とごみの減量に取り組みましょう。

正しいごみの分け方や出し方を検索！

ごみの分け方や出し方で迷ったら『ごみ分別辞典』や『ごみ分別アプリ』をご活用ください



※通関料は利用者負担となります。

『雑紙』は『ごみ』ではなく大切な資源になります！

雑紙とは、家庭で出される古紙のうち、新聞、雑誌、ダンボール、紙パック以外のリサイクルできる紙のことです。

○ 雑紙として出せるもの（資源として生まれ変わります）



✕ 雑紙として出せないもの（リサイクルできないため燃やせるごみへ）



ワンポイントアドバイス 【雑紙の出し方】資源物の回収日（木曜日）に出してください。※分別した雑紙を紙袋に入れる習慣をつければ簡単にまとめられます。



Reuse

不要品を捨てるから活かすに転換！捨てる前に再利用できないか検討しましょう

自身にとっては不要品でも必要な人に譲ったり、買い取りサービスを利用して、他の誰かが活用できるものもあります。

市では、不要品を廃棄物として処分せずにリユース（再利用）できる取り組みを推進するため、不要品（衣料品・家具・家電など）の一括査定サービス『おいくら』を運営する民間事業者と業務連携協定を結んでいます。

この不要品一括査定サービスは、オンライン査定フォームを利用して、複数の買取店から見積もりが受けられ、大型の家具や家電なども手軽にリユースできます。リユース促進に向けての業務連携や不要品一括査定サービスについて、詳しくは市ホームページでご確認ください。



不要品をごみとして捨てる前に、リユースして活かさないかを一度検討し、捨てる生活から活かす生活に転換してみませんか。



※再販できる品物が買い取りの対象です。すべての品物が買い取りできるわけではありません。不要品一括査定サービス『おいくら』に関する問い合わせは『おいくら』サポートにご連絡ください（市ホームページにリンク有り）。

Reduce

環境と家計にやさしい取り組みを实践！食品ロス削減にご協力ください

食べられるにも関わらず、さまざまな理由で捨てられてしまう食品を『食品ロス』といいます。食品ロスの主な原因は、食材や食品の買いすぎや期限切れ、食べ残しなどです。

食品ロスの削減は、誰もが意識をして行動することで簡単に取り組むことができ、環境にもやさしく家計の負担軽減にもつながります。環境にも家計にもやさしい食品ロスの削減を实践しましょう。

ここがポイント！『使いきり』を意識して買い物は必要なものを必要な分だけ買しましょう！

食品や食材を無駄なく使いきれるように、事前に冷蔵庫などを確認して、必要なものを必要な分だけ購入することを心掛けましょう。



ここがポイント！計画的に適量をおいしくいただく『食べきり』を实践しましょう！

賞味期限と消費期限を正しく理解し、食品や食材を計画的に使いましょう。

- 賞味期限** ▶ 袋や容器を開封せずに、記載された保存方法で保存した場合に、品質が変わらずにおいしく食べられる期限のこと。
- 消費期限** ▶ 袋や容器を開封せずに、記載された保存方法で保存した場合に、安全に食べられる期限のこと。

外食時は、適量を注文しておいしく食べきりましょう。宴会などでは、提供された料理を楽しむ時間を設け、食べ残しがないように心掛けましょう。

